

# 実需者起点の米づくり栽培暦（早期栽培用・履歴用）

《 登熟の向上を図り粒の充実をめざす 》

栃木県・JAかみつが・JAグループ栃木

## 一じっくり型米づくり

- 1 耕深15cm以上の確保
- 2 薄播き、小苗植え(3~5本)
- 3 基肥少肥
- 4 間断灌水(軽い中干し)によりじっくり茎数を確保
- 5 出穂前15日にきっちり穂肥

**総粒数を抑えて登熟の向上**

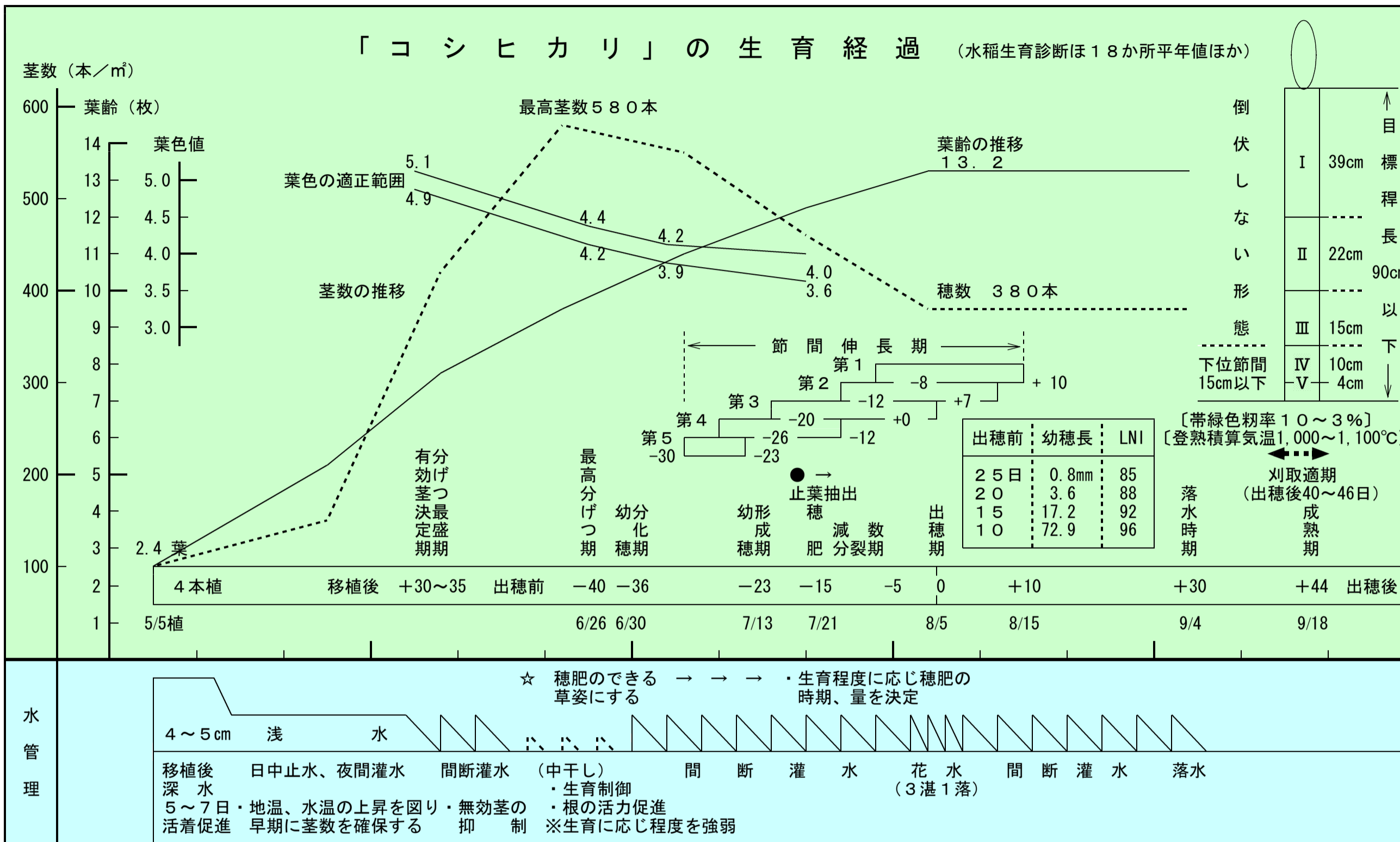
目標収量 540 kg/10a

目標総粒数 30,000~32,000 粒/m<sup>2</sup>

### ■ 目標とする収量及び収量構成要素

収量 kg/10a	540
穂数 本/m <sup>2</sup> (一株当たり)	360~380 (17~18本)
一穂粒数 粒	80~85
m <sup>2</sup> 当たり粒数	30,000~32,000
登熟歩合 %	80~83
玄米千粒重 g	21.5~22.0

栽植密度21株/m<sup>2</sup>の場合(70株/坪)



### おいしさ重視の米づくり

〔多様な米づくり推進運動〕

- 遵守すべき基準
  - ・種子更新率100%
  - ・玄米水分14.5~15.0%
- 粒ぞろいを良くするために
  - ・整粒歩合80%以上

(目標収量540kg/10a、目標総粒数30,000~32,000粒/m<sup>2</sup>)

- 食味を良くするために
  - ・玄米タンパク質含有率 コシヒカリ 6.5%以下

### 早植コシヒカリ・栽培のポイント

- 1 適正な品種構成、適期移植による作期幅の拡大(作期分散)
  - ・品種や移植時期の組み合わせにより、作期幅を拡大する。(作期分散による被害回避)
  - ・移植時期は5月上旬と中旬に分散させる。
- 2 深耕、土づくり肥料などによる土づくり
  - ・耕深15cm以上を確保する。
  - ・熔りん80~100kg、珪カル120kg/10a(標準)。土壌診断に基づいて施用する。
  - ・良質な堆肥0.5~1t/10a施用、又は、稲わらのすき込み。
- 3 薄播きによる健苗育成、小苗移植
  - ・1箱当たりの播種量は乾粒で150g以下
  - ・植え付け本数は3~5本(平均4本)とし、太茎形成により登熟を高める。
- 4 基肥を控え、生育診断に基づく適期穂肥
  - ・基肥を控えて初期はじっくり育て、適期適量の穂肥で登熟・食味の向上を図る。
  - ・基肥窒素量 県中南部 2~3kg/10a (県北部 3~4kg/10a)
  - ・肥効調節型肥料による全量基肥施肥の場合は、「ひとふりくん1号、又は、2号」又は、「プレミアム1号、又は、2号」など。
  - ※5月中旬の移植は稈が多少伸びるため、基肥窒素量を基準より2割程度減らす。
  - ・穂肥窒素量 出穂前15日に3kg/10a程度
  - ・生育診断指標値(別途参照)
- 5 間断灌水を基本に、落水は出穂後30日頃
  - ・有効茎確保後は間断灌水を基本に、生育診断により中干しの程度を強弱
  - ・出穂前25日以降の低温時は、深水管理を行う。
  - ・出穂後の異常高温時には、かけ流し又は灌水により、地温の低下、根の活力維持を図る。
  - ・落水時期は出穂後30日頃とする。ほ場条件を考慮し、収穫7~10日前まで走り水実施
- 6 適正な病害虫防除
  - ・発生予察情報に基づいた適正な防除
  - ・特に、いもち病、カメムシ等の適期防除
- 7 適正な収穫・乾燥・調製
  - ・刈取適期は、帯緑色率で10~3%、登熟積算気温1,000~1,100℃。
  - ・高温、急激な乾燥を防止し、適正水分の確保
  - ・ライスレーダー網目1.85mmの使用で整粒の確保

旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
月	(~2月) 3月	4月			5月			6月			7月			8月			9月				
主	耕起 / 代かき / 田植え						除草剤散布(初期/中期/後期)						出穂期			落水時期			収穫日		
	耕起	1回目	2回目	代かき	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目	散布日	資材名	使用量(kg/10a)	出穂期	落水時期	収穫日						
な	たい肥・土づくり肥料の投入 / 基肥施肥						追肥(加里、穂肥等)						◇早植コシヒカリ生育診断指標値(県中南部:分施)								
	たい肥	施用日	資材名	施用量(kg/10a)	追肥	施用日	資材名	施用量(kg/10a)	時期	葉色	茎数m <sup>2</sup>	葉色×茎数									
作	床土準備/消毒・施肥 / 種子消毒 / 播種						病虫害防除/生育調節剤(箱施肥、本田散布) / イネミズゾウムシ、いもち病、紋枯病、カメムシ等/倒伏軽減剤等						※ 生育診断指標値は地域別(県中南部、県北部)、栽植密度別(22,20株/m <sup>2</sup> )、作期別(早植、普通植)に作成								
	床土消毒	実施日	資材名	使用量	区分	散布日	資材名	使用量・濃度													
業	床土施肥	実施日	資材名	使用量																	
	種子消毒	実施日	資材名	使用量																	
播種	実施日	資材名	使用量																		